



著者プロフィール

津川絵理子（つがわ・えりこ）

昭和43年生まれ

平成3年「南風」入会

南風同人、俳人協会会員

〈句集『和音』より転載〉〈2006年9月21日時点〉

『和音』（自選十五句）

津川絵理子

たくさんの吾が生まるるしやぼん玉
春愁の帽子愛しと言はれけり
うつすらと空気をふくみ種袋
雛このさらはれさうな軽さかな
逃水に体内の水呼ばれをり
初蚊帳のすこしすつばき香に寝たり
初蟬のながき調律はじまりぬ
水着きてをんな胸よりたちあがる
腕の中百合ひらきくる気配あり
伯林と書けば遠しや鷗外忌
祇園会の屏風の裏を見て棲める
見えさうな金木犀の香なりけり
病む人のまた起きてくる夜長かな
はつはつと白息をもて論さるる
着ぶくれて街中なんと鏡多し